

ユースたちの集いがつなぐ、平和への一歩

アジア太平洋地域 ユースコンボケーション

東京YMCAユースボランティアリーダー
アジア太平洋地域ユースコンボケーション
実行委員リーダー長
丸山 啓太 さん



はじめまして、東京YMCAから実行委員リーダー長として参加しました丸山啓太(おペリーダー)です。アジア太平洋地域ユースコンボケーション(AYC) 2025 Kumamotoは、7月30日(水)～8月3日(日)の4泊5日、熊本YMCA阿蘇キャンプで開催されました。AYCは18歳から35歳までのユースが国境を越えて集い、「私たちユース世代が未来に向けてできること」を考え、実行へつなぐ場で、各ワイズメンズクラブの支援のもと2年ごとに行われます。今回は日本、台湾、スリランカ、タイ、ケニアからユース計29名が参加。熊本YMCAからは職員1名、ユースボランティアリーダー2名の計3名が参加しました。熊本YMCAをはじめ多くのご支援・ご協力によりAYC2025 Kumamotoを無事に終えることができました。

私を含め実行委員会で1年以上の期間All Englishのプログラムをゼロからつくりましたが、決して容易ではありませんでした。しかも、参加者全員にとって英語は非母語で、表現の壁にも何度も向き合いました。実行委員会は当日が初対面、会議は半年間すべてオンライン。非対面のコミュニケーションに難しさを覚え、「もっと参加者目線で意見をぶつけよう」と感情的に伝えてしまった場面もありました。それでも阿蘇での5日間、参加者同士が心からの感情を交わし、テーマである「平和」をもとに全員が未来への一歩を踏み出せたと心の底から感じています。

AYCで私が参加者から教わったのは、誰もが「何かをより良くしたい」という思いを持っているということです。「個人の平和」をテーマに2日目の朝に行われたグループディスカッションでは「人生ストレスばかりで吐き出し方がわからない」(タイ)、「政治に関心があるけど発信すると変な人だと思われそう」(日本)といった悩みが自然と語られました。「距離が近いから言える」「遠いから言える」ではない。距離にかかわらず話せる土台を、その場で一緒につくったからです。英語で必死に自分を伝え合い、たった1日で心の底の悩みを言葉にできました。

最後に、平和に向けてそれぞれができる具体的なプランを考えてもらいました。私のプランは「今回のAYCのように若者が集い、心の底から考える機会を可能な限り多くつくる」ことです。自ら命を絶った医師を共に目指していた同期も救えたかもしれない。1日60人(2024年度は20,320人)の自殺者、今もがき苦しむ人も、こうした場が必ず誰かの力になり得る。AYCはゴールではありません。私にとってもこのAYCは、平和へ一歩踏み出す大きなきっかけとなりました。



広島YMCA 国際青少年平和セミナー

熊本YMCAユースボランティアリーダー
空 帆奈実 さん



8月5日(火)～8月9日(土)に行われた広島YMCAが主催する国際青少年平和セミナー(ピースセミナー)に参加しました。私は大学進学を機に熊本に来ましたが、3月までは広島に住んでいました。そのため、小・中学校では当たり前のように平和学習を行い、高校では戦争と平和をテーマにして探求活動を行っていました。しかし、広島を出ると原爆のことを知らない人がたくさんいて、今まで知っていて当たり前だと思っていたことが世の中では当たり前ではないということに衝撃を受けました。そんな時にピースセミナーの誘いがあり、広島を出て感じたことや平和に対する思いなどを自分の言葉で話せる良い機会だと思い参加することになりました。

1945年8月6日午前8時15分、たった一発の原子爆弾によって広島は町は焼け野原になりました。一瞬にして広島の人々の生活は奪われました。それと同時に、草木も燃え、広島は町から緑がなくなりました。

今回の研修では、原爆や平和に関する碑になりきって物語を作るワークをしました。私のグループでは被爆しながら、わずかな年月で芽吹き、広島の人々を元気づけたと言われるアオギリの木になりきり、原爆投下前後だけではなく投下後から現在までのアオギリの気持ちを想像し言葉にしました。このワークをしたことで、被爆後の復興に力を尽きた人や広島の人々に勇気を与えたものの大切さを改めて考えることができました。

「75年は草木も生えぬ。」と言われた広島ですが、今ではたくさんの緑があります。たくさんの碑もあり、そのひとつひとつに思いが込められています。被爆後、多くの人のおかげで広島は復興しました。そして、後世に伝えようと、苦しい思いをしながら写真を撮ったり、絵にしたりした人たちがいました。二度と原爆が落とされないように、平和な世界になるように、たくさんの碑も作られました。平和を願うお祭りも毎年開催されるようになりました。広島の悲惨な状況や復興の記録を残そうとした人たちの思いを受け取ることができるのは、今生きている私たちです。私たちにできることは、残してもらったものから何を感じるか、共有しあうか、ということだと思います。平和とは何か、自分たちに何ができるのか。答えがないから難しいし、争いも生まれます。ですが、平和であってほしいという同じ気持ちがあれば、お互い歩み寄ることができると思います。



ピースセミナーの様子

I n f o r m a t i o n

未来につながる YMCA祭

誰かの未来を明るくするYMCAのお祭り。益金は年末募金、国際協力、地域活動などに用いられます。ぜひご来場ください。

祭
×
平和

センター祭名称	会場	日程	内容(予定)
わいわい秋まつり ☎ Tel 096-352-2981	熊本五福幼稚園 (熊本市中央区魚屋町)	9月13日(土)	手作り食バザー、ゲーム、子どもたちの浴衣コンテストなど
サザンフェスタ ☎ Tel 096-353-6391(音声ガイダンス「2」)	みなみグローバルコミュニティセンター (熊本市南区田迎)	9月21日(日)	キッチンカーやバザー、ステージ発表、ゲームなど
チャリティーデイキャンプin三つの木の家 ☎ Tel 096-353-6391(音声ガイダンス「4」)	むさしグローバルコミュニティセンター集合 (合志市幾久富)	9月21日(日)	羽釜(はがま)でごはん炊き体験、クラフトなど
ながみね祭 ☎ Tel 096-353-6391(音声ガイダンス「3」)	ながみねファミリーセンター (熊本市東区長嶺南)	9月27日(土)	託麻南校区第8町内自治会との共催。食バザー、ステージ発表など
前進祭 ☎ Tel 096-353-6391(音声ガイダンス「1」)	本館／グローバルコミュニティセンター (熊本市中央区段山本町)	11月2日(日)	キッチンカー、熊本YMCA学院学生による出店など
あそまつり ☎ Tel 0967-34-0402	YMCA黒川保育園 (阿蘇市黒川)	11月8日(土)	尾ヶ石保育園・永草保育園・赤水保育園・黒川保育園の合同開催。キッチンカー、のみの市、チャリティービンゴ大会など
東部わいわい祭 ☎ Tel 096-382-6661	東部グローバルコミュニティプラザ (熊本市中央区帯山)	11月9日(日)	帯西まつりと同日開催。食バザー、ゲームコーナー、音楽コンサート予定

☎ 日時 ☑ 会場 ☑ 内容 ☑ 参加費 ☑ 定員 ☑ 参加条件 ☑ 持ち物 ☑ 対象 ☑ 主催 ☑ 締切 ☑ 申込 ☑ 問合せ ☑ その他

常議員会議長・副議長
交代のご報告

熊本YMCAの活動を支える維持会員の代表である常議員の議決機関「常議員会」の議長・副議長が交代となりました。議長・副議長が佐藤通彦さん(長)、麻生尚哉さん(副)から麻生尚哉さん(長)、森博之さん(副)に交代となりました。

任期:2025年6月～2026年5月

熊本いのちの電話 相談電話のご案内

熊本いのちの電話は、誰でもいつでも悩み事が相談できるものです。全国に窓口があり、熊本では24時間体制でご相談を受け付けています。一人で抱え込まずお気軽に電話してみてください。

※熊本YMCAはいのちの電話の研修等に協力しています。

熊本いのちの電話 相談電話 Tel 096-353-4343

フリーダイヤル 0120-783-556

わたしのYMCAストーリー

新連載

一人ひとりが輝く存在

熊本YMCA副会長 本館／GCC運営委員 西 章男



20年前の2005年は、私にとって特別な年です。熊本へ引っ越し、大学のボランティアセンター担当教員として勤務を始めたことが、大きな転機となりました。「ボランティア」は必然的にYMCAと私を結び、人生を豊かにしてくれました。大学では必修講義「ボランティア学修論」を担当し、今年で22年目(非常勤を含む)になります。できる限り学生と共に活動に参加し、その頑張る姿に励まされ、神さまの導きに支えられて歩んできました。

講義では必ず池間哲郎さんの「最も大切なボランティアは、自分自身一生懸命に生きること」という言葉を紹介します。学生たちには、ボランティアを通して一人ではなく誰かと支え合いながら一生懸命に生きていること、そして一人ひとりが輝く存在であることを実感してほしいと願っています。

※このコラムではYMCAに関わる皆さんに「みつかる。つながる。よくなっていく。」「ポジティブネットのある豊かな社会」をテーマに寄稿をいただきます。

ワイズメンズクラブ
リレーコラム

みつかる。つながる。よくなっていく。

熊本ジェーンズワイズメンズクラブ 森 博之

新型コロナによる感染対策で、熊本YMCA学院の留学生も一時は激減しましたが、日常生活も穏やかになるなか、多くの留学生が日本語科に戻ってきました。これまでもジェーンズワイズメンズクラブでは、留学生への奨学金贈呈などのサポートに取り組んでおり、加えて、日頃からお互いの顔の見える関係づくりと、日本語を使う機会づくりとして、留学生とクラブメンバーとの茶話会を開催しています。

茶話会での会話では、文化や価値観の違いから、毎回、私たちメンバーも、「みつかる。つながる。よくなっていく。」を感じますし、参加する留学生も体感してもらえると幸いです。

※ワイズメンズクラブ国際協会は、YMCAをサポートする世界的な奉仕団体です。

R | E | P | O | R | T

福祉

盲学校の生徒たち キャンプや国際交流に挑戦



熊本ワイズメンズクラブ等との協力のもと、熊本県立盲学校の児童、生徒を対象とするプログラムを実施。子どもたちが様々なチャレンジをしました。

第49回ポニーキャンプ



熊本YMCA学院 こども保育科1年 佐方菜々美

7月24日(木)～25日(金)に天草で実施されたポニーキャンプにリーダーとして参加しました。

キャンプでは熊本県立盲学校の児童、生徒を熊本YMCA学院の学生リーダーがサポートする形で、ヨット体験やパン作りを行いました。キャンプ中にはハブニングもありましたが、楽しく乗り越えることができました。盲学校の生徒たちと関わる中で、どのような声掛けや誘導だと行動しやすいかを考えました。そして、子ども自身でできること、援助が必要なることを把握し、自分でできることを見守りつつ、必要に応じて援助をすることが大切だと学びました。私が担当した子どもにリーダー3人で援助をしました。援助する人同士も声掛けをして支え合うことの大切さも感じました。ポニーキャンプを通して多くのことを学び、とても良い経験となりました。



第37回日韓青少年交流



熊本県立盲学校 高等部主事 山岡正人

日韓青少年交流プログラムが、8月5日(火)～8月8日(金)に開催されました。本プログラムは、視覚に障がいのある日韓の青少年が、スポーツや文化交流を通じて、障がいや文化の違いを超えた国際交流をすることを目的としています。今年は熊本から韓国大邱へ訪問し、大邱YMCAや大邱光明学校などで様々な活動が行われました。大邱光明学校生とのスポーツ交流、K-POP体験、韓国料理体験などがあり、参加者は協力し合い、互いの文化を尊重し交流を深めました。

このプログラムは、1981年から実施され、交流を通じて、日韓の青少年が互いの文化を理解し、友情を育む貴重な機会となっています。参加した生徒からは、「最初は緊張したけれど、一緒にスポーツやK-POP体験などを通して話をするうちに、国や言葉の違いを忘れて仲良くなれた」という感想が聞かれました。



居場所

高校生の居場所づくり 「もらいろ」がスタート



ユースボランティアリーダー
木下春香(ばるさんリーダー)

「モラトリウム」×「自分の色」を掛け合わせた「もらいろ」は高校生を対象とした居場所づくりの活動です。ユースボランティアリーダーが中心となり、2025年春から東部グローバルコミュニティプラザでスタートしました。

高校生年代での不登校は約69,000人です。生き

づらさを抱え苦しんでいる高校生が自分の色をさがす場所がもらいろです。活動の中で、自分自身がかけがえない存在だと気づくこと、他者の中で自分を見出し、自信をつけることを目標としています。

7月は、おやつ作りをしました。メンバー2名、リーダー4名で活動しました。役割分担をし、白玉とフルーツポンチを作って、みんなで食べました。一人でも多くの高校生にとって、自分を見つけることのできる、居場所となるように活動していきます。



熊本YMCA 総主事 伊藤 眞太郎

マナ Vol.5

80年目の夏

私は、夏が好きです。そして、YMCAのキャンプが大好きです。これまで数えきれないほどのキャンプを、子どもたちと共に体験しました。朝靄の中で目覚める時間。仲間と囲む食卓。眠る直前まで続くささやき声。どの瞬間も、忘れたがたい宝物です。キャンプには、不思議な力があります。誰かが困っているときに手を差し伸べること。持っているものを分け合うこと。一つひとつが、「共に生きる」ということを教えてくれま

す。そして、何よりも素晴らしいのは、それを当たり前のように行う“子どもたちの姿”です。

子どもたちは、助け合う力と、分かち合う心を備えており、自分を主張する前に、誰かの涙に気づく感性を持っています。YMCAのキャンプは、子どもたちの姿から、「平和をつくる心」「公正を実現するまなざし」を学ぶ場でもあります。

イエスは「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」(マタイによる福音書18章3節)と語りました。「子供のように」とは、心を開き、信じ、差し出すことです。傷つきながらも人を信じ、つながろうとする力——それこそが、“こどものような心”なのだと思います。

一つの戦争が終わり80年。それぞれの国、地

域、人生に、それぞれの「80年」があります。平和も、公正も、祈りと行動を通して築くものです。大人が教えるものではなく、隣人と共に生きていく中で、見出していくものではないでしょうか。

YMCAのキャンプは、ただ自然を楽しむための場ではありません。子どもたちが「共に生きること」を体験し、「分かち合い」の尊さに出会いふれる時間があります。この夏もまた、私たちはたくさんの“マナ(恵み)”を受け取りました。子どもたちのように、心を開き、分かち合い、共に生きる。平和をつくり、公正を实らせる——その静かな営みを、これからもYMCAの真ん中に据え、共に歩み続けていきたいと願います。



よろこびあえる未来をめざして30年 YMCAフィランソロピー協会



YMCAフィランソロピー協会は、熊本県内の企業・団体が社会貢献を目的に様々な取り組みを行う団体です。1995年に設立し、30周年を迎えます。7月～8月に実施した活動を紹介します。

フィランソロピーセミナー



7月11日(金)、「外国籍人材との共創が導く持続可能な組織」をテーマに熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターで開催し、26名が参加しました。

長崎を拠点にオフィス什器事業やホテル事業を展開し、外国籍人材が活躍する企業として注目される九州教具株式会社の代表取締役社長である船橋修一氏が講演。日本語が話せない状態で採用した社員による社内変革の事例などが紹介されました。船橋さんは「『人手不足だから外国人』ではありません。優秀な人間がいるから私は採用しています。ぜひ皆さんにも外国籍人材について考えていただきたい」とメッセージを送りました。

企業交流会



今回で16回目を数える企業交流会をビュッフェレストラン「ぎんなん」で開催しました。

フィランソロピーセミナーとの同日開催で、9つの企業・団体から17名が参加。フィランソロピーセミナーの登壇者である船橋さんも参加し、乾杯の挨拶が行われました。

「300円程度」をテーマに参加者各人がプレゼントを持ち寄り、自己紹介を兼ねたプレゼント交換の場を設け、企業の垣根を超えたコミュニケーションの場となりました。参加者からは「このようなつながりの場がなくなってきている、もっと多くの人を巻き込みたい」などの声が聞かれました。会終了後には「またお会いしましょう」という声も聞かれました。

おしごとカフェ



8月6日(水)、児童養護施設で暮らす子どもたちの「職業観」「仕事観」を深めることを目的に第8回「おしごとカフェ」を熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターで開催しました。

5つの児童養護施設から引率を含め、約40名が参加。6つの企業・団体がおしごと説明のブースを設けました。

パネルや動画を用いた説明が行われたほか、福田病院による赤ちゃんの人形を用いた「新生児のお世話体験」など、工夫を凝らしたブースが展開されました。子どもたちからは、「働くということの楽しさを大人の方から聞いて、早く働いてみたいと思った」「将来の夢につながる道が広がった」などの感想が寄せられました。

創立30周年記念セミナー&異業種交流会を開催

■10月10日(金)

熊本地震から10年「防災セミナー」

九州を中心に気象防災講演、防災ワークショップ、お天気教室の講師として活躍する早田蛍さんを招き、個人、地域、企業が取り組むべき防災について学びます。

テーマ 熊本地震から10年 過去の災害に学ぶ日頃の備え

時間 17:00～18:30 (16:45 受付開始)

講師 早田 蛍さん (NPO法人防災WEST副理事長、熊本市防災会議委員、気象予報士、防災士)

場 肥後銀行本店 2階 大会議室(熊本市中央区練兵町1)

※公共交通機関または近隣駐車場をご利用ください。

費 無料



講師 早田 蛍さん

熊本を元気に! 「異業種交流会」

地域と企業がつながる、ここにしかない交流の場。YMCAフィランソロピー協会ならではの「共感」と「共創」を育む異業種交流会です。

※名刺をお持ちください。

時間 19:00～21:00 (18:45 受付開始)

場 中華旬菜 燕燕(熊本市中央区練兵町54-4)

費 5,000円 **定** 30名

セミナーのみ、交流会のみの参加も可能です。

問 YMCAフィランソロピー協会事務局 Tel 096-353-6397

詳細・お申込みはWebで▶



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 条 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)

発行人／伊藤 真太郎 編集／熊本YMCA ICR
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



公式LINE

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2025年度基本聖句

何事も愛をもって行いなさい
コリントの信徒への手紙一 16章14節